

<上記を追記する根拠>

① あるがん専門看護師が過去3年間に対応した相談支援内容（具体例）

年間約170件の依頼（平均支援期間50日<分布1日～250日>）

相談内容は心のケア（精神的支援）のみならず、疼痛などの症状コントロール、治療と生活のバランスを図っていくこと、入退院や治療の場の移行に関して意思決定していくこと、などの頻度が高い。

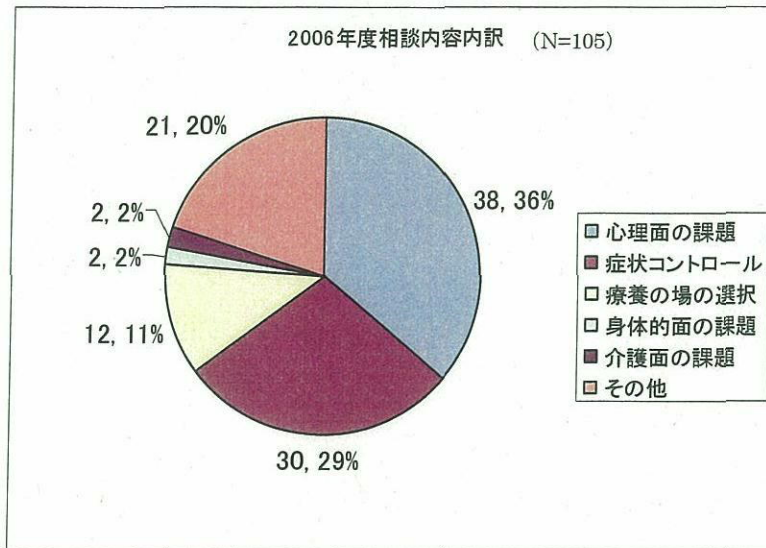


図 在宅緩和ケア支援センターにおける相談内容の内訳

以上からすると、患者や家族は、医師に求めるセカンドオピニオンとは異なる、もっと療養生活に密着した相談、それに対する適切な情報の提供や手立てを必要としている。

また、闘病経験者からの生きた知恵を健康情報として組み入れ、広く活用できるように健康教育ツールを生み出していける相談支援者が求められている。

上記の能力を備えているがん看護専門看護師が相談支援センターでリーダー的役割を果たすことが望まれる。